

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200440		
法人名	医療法人社団のぞみ会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	〒270－2223 千葉県松戸市秋山48－5		
自己評価作成日	令和8年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.minnanokaigo.com/facility/022-1291200440/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和8年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心して楽しく、ゆったりと、自分らしく生きていく家を提供したい」、そんな想いから生れたのが、グループホーム あおぞらです。日当たりの良い一軒家で、掃除や洗濯、食事の支度などの日常生活を通して、お一人お一人に合ったプランを組み立て、じっくりとケアを提供しています。入居者様、ご家族、それぞれの思いや希望をお聞きし、①笑顔と笑い声のある生活 ②生きていると実感できる生活 ③持てる力を発揮できる生活の理念をスタッフ全員で共有し、日々の生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は住宅街の中に位置し、隣接する保育園や近隣の高等学校との交流を通じて地域に溶け込み、近隣住民からの相談にも応じるなど、地域に開かれた身近な福祉拠点としての役割を果たしている。利用者が笑顔で過ごせる生活を大切に、「笑い」をテーマにしたケアを意識しながら、職員は敬語で目線を合わせた丁寧な声かけを行い、安心と信頼関係の構築に努めている。保育園児からの手作り誕生日カードや訪問交流は利用者の大きな喜びとなっており、高校生実習生との調理活動や浴衣の着付けなど世代間交流も活発である。さらに運営推進会議には多様な関係者が参加し、地域の視点からの助言や情報交換が行われている。現場の気づきや職員の提案を関係者の知見と結びつけ、具体的なサービス改善につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①持てる力を発揮できる暮らし②生きていると実感できる暮らし③笑顔と笑い声のある暮らし、以上の理念を掲示し、ケアに繋げるよう努力している。利用者一人一人の機能 好みを活かし いきいきと暮らせるよう職員間で話し合い実践している	当該事業所では、利用者の笑顔と笑い声のある生活を大切にする理念を掲げている。職員は腰をかがめて目線を合わせて声掛けを行い、意思が通じ合う信頼関係の構築に努めている。また、利用者一人ひとりに役割を設け、仕事として主体的に取り組めるよう支援し、生きがいを生活の楽しみにつなげるよう工夫している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会・花の会・保育園 近隣の高校との交流を行い、美容院、飲食店、スーパー、洋服屋等を利用し、友好に努めている。規格の高校の介護実習生を毎年受け入れている	当該事業所は地域との日常的な交流を大切にしている。隣接する保育園から毎月手作りのバースデーカードや歌のプレゼントが届き、利用者との温かな交流が生まれている。近隣高校介護科の実習受け入れや町会長との連携による地域行事参加、見学や相談対応などを通して、地域の一員として信頼関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた時に支援方法などを伝えたり事業所として持っている情報を知らせている。又、地域に積極的に出て、認知症の人々の生活実態を理解してもらうようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者及びその ご家 族民生委員 高齢者いきいき安心センター職員 介護相談員 近隣施設(グループホーム 近隣保育園 高等学校)の参加を得て2か月に1回開催し、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに開催され、地域包括支援センターまたは市指導監査課職員、町会長、民生委員、他事業所管理者、高校長、保育園長、介護相談員、利用者など多様な参加がある。災害時の避難場所や地域資源の活用、ヒヤリハット事例等について意見交換し、地域の中での事業所の役割を確認しながらサービス向上に活かしている。		
	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	個別の用件の相談 又 松戸市の「ケアクラブ」からのメール等で、諸情報を共有し協力関係を築く様努力している。介護相談員の訪問も再開され 2か月に1回訪問を受け入れている。高齢者いきいき安心センターや生活保護 成年後見人の相談等を行っている	管理者は市担当部署と日頃から連絡を取り合い、必要な相談や手続きについて丁寧に確認しながら協力関係を築いている。遠方からの入居者に関する手続きについても相談し助言を得ている。また、市の情報提供サイト「ケアクラブ」を活用し制度や研修情報を把握している。市担当者からの説明も事業所に配慮した分かりやすい内容で、円滑な連携に繋がっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で自主的な勉強会を3か月に1かい行っている。毎日の申し送り時にも注意事項等伝達しているセンサーマットの使用についても会議を開いて現在の使用頻度 現段階での必要度など職員間で意見を出し合っている。	職員は利用者への言葉遣いを敬語とし、尊厳に配慮した対応を心掛けている。転倒やベッドからの転落の恐れがある利用者には、床にマットを敷きセンサーを設置するなど、安全確保を図りながら身体拘束に頼らない支援を実践している。また、全体会議や日常の話し合いでは具体的事例を挙げて確認し合い、身体拘束をしないケアへの理解を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設立と委員会開催を行い、尊厳と虐待について共通理解を深め、ホームの中で虐待が見過ごされることのないよう、スタッフ間で常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて行政の研修に参加している。又、成年後見制度を利用されている入居者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い合意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が意見、要望を言い易い雰囲気作りを常に考えている。ご家族の面会時 または月1回の家族へのお便り(あおぞら通信)には利用者の日常の様子を丁寧に伝え、要望を伺うなど話し易い雰囲気作りを常に心掛けている。又2ヶ月に1度の運営推進会議で意見伺いの他 ご意向を伺いようにしている	家族の面会時には傾聴を心掛け、介護計画の説明や近況報告の機会を通して意見や要望を聞き取るよう努めている。些細な質問でも気軽に伝えられる関係づくりを大切にし、家族と事業所の距離を縮めるよう真摯に対応している。また、毎月発行の「あおぞら通信」に利用者一人ひとりの写真や生活の様子を掲載し、寄せられた感想や意見を運営や支援の改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設責任者は管理者を兼務して日常業務にも携わり、毎日の申し送り時、月例ミーティング等で職員からの意見・提案事項を皆で協議し、実務に反映させるよう務めている。	現場で生じる困りごとや業務上の課題について、職員が意見を出し合う機会を設け、運営への反映に努めている。例えば、車いす利用者のトイレ介助の負担軽減について検討を行い、法人内のPTや福祉用具業者、職員が連携して対応策を協議した。その結果、リフト式便座や回転板、専用手すりを導入し、利用者と介助職員双方の身体的負担の軽減につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設責任者は、職員が気持ちよくやりがいを持って働けるよう、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修・セミナー等に職員を参加させている。社内においては事例検討や介護技術に関して、必要のある都度実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者GH協議会に加入し、研修会・施設見学会に参加し交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。又ケアマネは介護支援専門委員協議会に属し 同様に取り組んでいる。また運営推進会議に他事業所の責任者とも意見交換をし サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人の言動や表情などに注意を払いながらご希望を聴くと同時に、ご家族からの情報をもとに、ご本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを蜜にとることを心がけ、思いや不安を受け止め、ご要望を聴きだし、ご家族との良い関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援については、ご家族と相談しその対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除 調理など暮らしを共に行う中で職員入居者、それぞれの良さが混じり合い 穏やかで家族のような関係ができていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日常生活、変化をお知らせし、面会時には外出・散歩の同行、居室でゆっくり過ごして頂くことや 本人の望むケアを共に探ったりしケアの共有を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が共に支える気持ちを継続していけるよう配慮しながら、親戚・友人等の連絡や面会など、感染対策をしながら受入れている。手紙のやり取り、電話の取次ぎ等をして、交流を図っている利用者もいる。また大きな変化がなくても月に少なくとも1回は家族に最近の情報を伝えている	利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。特に家族との絆を重視、月に一度は家族へ電話で近況を伝えるほか、家族からの電話時には利用者本人が直接話せるよう取り次ぎ、触れ合う機会を確保している。また、髪型にこだわりのある利用者には馴染みの美容院を継続利用できるよう支援し、生活の楽しみや意欲の維持につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の細やかな配慮と支援で、利用者同士が労わり合い、和やかな関係を築いていけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた方から介護内容に関する相談を受けたり、不安を聞かせて頂くこともあり、退去後も相談や支援に努めている。又入居に至らなかった方の家族からの相談も含め対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での 表情 動作 言葉の中に表れる「その人の思い、意向」をくみ取れるように努め じっくりと話を聴く時間を取る様 職員全員が努めてそれを共有するようにしている。	利用者の思いや意向は、日常生活のかかわりの中で把握して支援している。また、毎日の申し送りや会議で職員全体に伝えて情報を共有している。ウールの服が好きな入居者がいて、その思いを尊重し、洗濯の際は縮まないように手洗いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に入居者とのコミュニケーションを図り、日常会話や昔話の中から現れるその人らしさの発見やご家族や前施設やケアマネとの連絡を蜜にし得た情報を 職員間で共有するなど「その人」を知ることにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で 表情や 体調など観察し 一人一人の生きる力の把握 又その力の引き出し方等 こまめに話し合い共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人 家族の意向を伺い 職員からの情報や専門職の意見も交換 共有し それらの情報をもとに担当者会議等で検討し介護計画を作成している。	介護計画は、利用者の状況に応じて随時～半年に1回見直している。見直し前にはモニタリングを行い状況を確認し、利用者及び家族の意向を確認している。また、会議等で職員の情報を聞き、医師や看護師等の意見を聞いて参考にして計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者や家族の要望を伺い、家族 スタッフ間で検討を重ね 専門職の意見も聞きながら個別の対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベントや町会 近隣の施設 高校などによるイベントへの参加をしたりし 又 近隣のショップを活用し好みの物の購入など 日々の暮らしが豊かになる様 努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で常に健康状態をチェックし 必用時には電話での相談や他病院への紹介等行ってもらっている。訪問診療以外の受診には必要時同行したり 情報を伝えるなどし必要な医療が受けられるようにしている。	月に2回かかりつけ医の往診と、週に1回訪問看護があり、職員と連携して利用者の健康を管理している。何かあれば、24時間体制で訪問看護師が相談に応じ、適切な医療支援を受けられるようになっている。依頼すれば歯科医師の訪問診療を受けられる。耳鼻科等他科受診には家族と協力して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「看護師との連絡ファイル」で入居者に関しての気づきや情報、相談事を記録し アドバイスを受け適切な対応ができている。さらに24時間看護師との電話連絡が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護介護サマリーで必要な情報を提供し 入院中は見舞いに伺い 状態を把握し 家族、病院側と情報を交換し できるだけ早期に退院できる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に応じ ご家族とお話し合いを段階的に行っている。必要時は医師との相談の場の設定や看護師同席のものと 十分な説明で 家族 本人の不安解消に努め 方針を共有しながら支援している。	利用者の重度化や終末期の際の対応は、家族と医師、看護師、ケアマネジャーやホーム長で話し合い、意向を確認して方針を決めている。ホームでの看取りを希望した場合は、看取りのケアプランをたてて家族の協力の元で支援している。昨年は1名看取り、現在看取りの利用者が1名いて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送や災害時対応など、月1回の定例会で状況に応じて話し合いを行っている。30年度は消防による 救急救命講習を受講受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	駅署や消防署と連携相談しながら 防火責任者指導の下 年2回の避難訓練を実施し 入居者が安全に避難できるよう 全職員が努力している。又運営推進会議や町内会活動 近隣施設との交流のなかで協力体制を構築している。	年に2回避難訓練の計画を立てて消防署に報告し昼対応・夜間対応で実施している。消防署員の参加の際は、消火器やAEDの指導を受けている。実施後は反省会を行い課題について話し合っている。近隣に保育園や介護実習を受けている高校があり、協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「1人1人に合った接し方」「その人の自尊心を損なわない」対応を心がけ 朝夕の申し送り時や 定例会で話し合い 個人の尊重とプライバシー保護が介護の基本となる様心がけている。	日常的に敬語を使い利用者の尊厳を守っている。運営推進会議では個人名を出さずに報告している。お便りの写真掲載は利用者及び家族の承諾を得ている。バルーンカテーテルの利用者には安全で目立たないようなショルダーバックを作成しプライドを確保して移動してもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者の中にはいり、自己を表現しやすいように助言や対話を心がけ、自己決定できるように工夫している。小さな出来事でも本人の決定ができ それらが希望の表出により繋がって行けるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自己決定やベースを尊重し 傾聴しながら対応している。その中から体調不良や心配事等を聞き出せたりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1～2ヶ月に1度 要望時近隣の美容院に行っている。自立の方はもとより 令和3年度は自粛中だが 例年 介助の必要な方にもご自分で衣類や好みの小物など選べる様促し 近隣の店舗での買い物支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人 その人の力に合った 手伝いを一緒に 行い みんなで和気あいあいと準備や片づけをしている。職員は一人一人の持っている力を引き出す努力をしている。	食材は外部業者から購入し、業者の管理栄養士の作成した献立で調理専門の職員が温かい食事を作って提供している。手伝える利用者は皆手伝いに参加している。時折食べたいものを聞いて、献立を変更している。サンドイッチの希望が多い。その他、カップラーメンの希望があり、みそ汁の代わりに小さいカップラーメンを提供した。梅干しつくりの得意な入居者と一緒に毎年梅干しをつくっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は記録し、健康状態の参考とし、制限、嚥下状況、好み等を把握し、医療とも連携しながら 個々に応じた対応に努めており、バランスの良い食生活の支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後 職員による義歯洗浄は週2回行っている。個々人に合った口腔ケアの自立を支援し 歯科医とも連携しながら必要なフォロー（一部介助やその人に合った器具の準備）を行っている。外出後は必ずうがい手洗いをを行う。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位の取れる方は全員トイレにて排泄している。個々人の排泄状況に応じ 誘導・助し 自分でやれるところは可能な限りやって頂き 自立に向けて支援している。下着(リハパン 布パンツ)も昼夜の状態に合わせて着替える等 細目に対応している。トイレの場所が認識できない方への適切な誘導 & 表示を行っている。	排泄表を活用して利用者一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導している。トイレには、電動で便座が高くなる仕組みや床に回転盤を置き、手すり、はねあげれる寄りかかり台の設置など福祉用具を多数活用して、職員の介護の軽減を図り利用者の自立を高める工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事 水分の摂取 適度な運動の他 おやつ作りに乳酸菌や 牛乳繊維質ものを工夫するなど服薬のみに頼らない 取り組みなどで個々人に合った便秘解消を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は希望によりいつでも変更できる。入浴時間も個々の好みの湯温 時間で入浴できる。入浴剤が数種類ある時は好みの物を選び楽しめる。	入浴は週2回支援して身体の清潔を図っている。湯船に入れない利用者には湯冷めしないように浴室を温め、絶えずシャワーでお湯で身体を温め、足浴して行っている。希望があれば入浴車を利用できることもお知らせしている。入浴剤を使い、季節ごとに家族が持ってくるゆずでゆず湯を行い、しょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの入居者がご自分のペース、健康状態にあわせ自由に就寝、良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は個人の「処方箋」「看護師との連絡帳」に記述有り いつでも確認できる。服薬の変更や症状の変化等 職員間で共有し 必要時24時間体制で看護師に相談できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、日常の仕事、外出など無理をすることなく楽しみ、それぞれの役割も自然にできている。買い物外出の折には、好きなおやつ、食品など自由に選び楽しめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩 車での買い物支援 時々の外食などなるべく外出できる様支援している。例年地域のお祭りやイベント参加時は地域の方がお誘いくださり 駐車場を確保して下さる等 協力頂けている。	天気の良い日には近隣を交代で散歩している。花見や買い物にも交代で行っている。近隣の保育園や高校から運動会などの行事のお誘いがあり、皆で参加している。地域の美容院に交代で通っている。広いベランダで日光浴し、花に水やりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持たれている方もいる。小遣いをご家族からお預かりしている方も外出や買い物に同行した折にはご自分でその中から支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に交流ができて、本人の意向に添えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓と広いテラスが有り 屋内にいながら季節の移り変わりを楽しめる。周囲は自然豊かで 閑静な住環境であり ゆったりと過ごせている。 季節季節に合った飾りつけを入居者 職員 共に行い楽しんでいる。	利用者が日中集まり寛いでいる食堂は、日当たりがよく窓から緑豊かな林が見えて気持ちよく過ごすことができる。掃除が行き届き清潔で利用者が安全に移動できるように整理整頓されていた。職員と一緒に制作した作品を壁に飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングフロアで集い、一人一人ソファや椅子、テラスでの日光浴とその時々にご自分にあった場所ですごせている。個々人がやりたいことを自由にやりながら過ごせる雰囲気もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いクローゼットと 使いやすい棚が有り 個々人の好みに合った飾りつけや 使い方をしている。家具や置物も寝具等の色等も本人や家族と相談し 好みに配置している。	利用者は担当職員と一緒に居室を過ごしやすいように片付け工夫している。家族の写真や隣の保育園の園児からもらった誕生日カードやレクレーションで作成した作品を飾っている。ベランダに出ると隣の保育園が見え、子どもたちと声を掛け合い楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活をしていただけるよう、エレベーター、てすり、スロープを備え、できるだけ自立で動けるよう配慮している。必要な個所には張り紙を行い 迷う+ことがなく自力で移動できる様工夫している。		